

小中連携教育から小中一貫教育へ ワンステップアップ!

9年間の連続した学びの中で子供たちの豊かな人間性と社会性を育てるために

狭山市の5本の柱



1 施設分離型での実施



2 目指す児童生徒像の共有



3 小中9年間のカリキュラム



4 各校区の実施の継続



5 英語教育の充実



平成28年度から、順次実施します

1 小中一貫教育推進
のための組織づくり

2 目指す児童生徒像
重点目標の設定

3 各中学校区
取組計画

4 カリキュラム編成
①育てたい力
②重点化を図る教科
③授業改善の視点

狭山市教育委員会

狭山市小中一貫教育 Q&A

Q1 小中一貫教育を実施する目的は何ですか。

A1 児童生徒の学習意欲の向上と「中1ギャップ」の解消です。



Q2 小中連携教育との違いは何ですか。

A2 【小中連携教育】とは、教育課程までは編成していない児童生徒・教員の連携による教育
【小中一貫教育】とは、9年間の教育を見通した「目指す児童生徒像」や重点目標などを柱に据え、教育課程を編成して系統的に行う教育

Q3 教育課程を見直しますか。また、重点的な教科はありますか。

A3 9年間を見通したカリキュラムを編成します。そして重点的な教科を設定します。

Q4 児童生徒は、お互いに接する場面が増えるのですか。

A4 今までの取組を各校の実態に応じて継続して行います。



Q5 クラブや部活動は一緒に活動しますか。

A5 小学校と中学校では、活動する時間や回数が違ってくるので全て一緒に活動するのは難しいと考えられます。



Q6 教員の行き来はあるのですか。その場合、自給は出授業になるのですか。

A6 教員の行き来は従来の取組（出前授業、授業参観等）に応じて行います。各中学校区の活動計画等の事前調整を工夫します。出授業になることはありません。

Q7 施設分離型では、共通の行事や交流会等の事前打合せ時間の確保ができますか。

A7 これまでの小中連携教育の取組と同じように、学校間で活動計画等の事前調整を行い教職員の研修会等を設定します。小・中学校間の連携をコーディネートする教員が連絡・調整していきます。

Q8 施設分離型でも小中一貫教育を実践しているよい点を教えてください。

A8 児童生徒や教職員、PTA等が連携し、様々な取組を実践しながら子供達のより良い成長のために、9年間を見通した学習指導や生徒指導を行っており、不登校生徒の減少、学力の向上等の効果が先進実践校から報告されています。

狭山市が目指す児童生徒像

夢に向かって はばたく 心豊かな 児童生徒



【小中一貫教育の目的】

各中学校区の小・中学校が一体となって義務教育9年間を見通す中で相互理解を深め、保護者や地域と連携し、子供たちの学力向上や学校生活への適応を図り、豊かな人間性や社会性を育てます。

一貫教育の目的

教科指導等による 学力向上

円滑な接続による 学校生活への適応

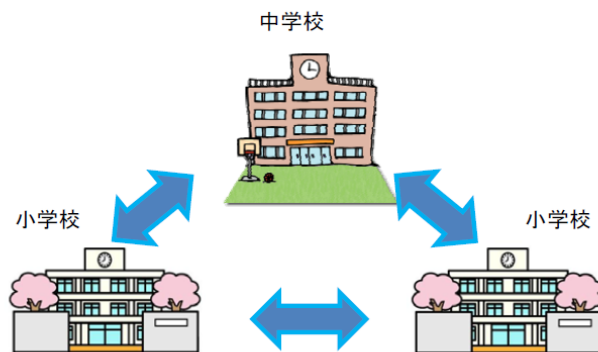
「中1ギャップの解消」

小・中学校間の 相互理解

豊かな人間性と
社会性を育成
(生きる力を育成
する手段として)

1 「施設分離型」による小中一貫教育を実施

施設分離型小中一貫校



平成20年度から全小中学校で取り組んできた小中連携教育を発展させ、下記のような8校区で、施設分離型の小中一貫教育を実施します。

2 中学校区ごとに「目指す児童生徒像」を共有

まず、中学校区ごとに小中共通の「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定します。そのためには各校区の実態を把握・分析する必要があります。各校区の児童生徒の「優れているところ」や「直面している課題」を明確にして、9年間でどのような児童生徒を育てていくか目標を設定します。

4 各中学校区の特徴を活かした取組を継続

これまで小中連携教育の取組として、各中学校区で「防災教育の連携」「地域福祉の連携」「教育課程の連携」「生徒指導の連携」の特色ある活動を進めてきました。こういった連携を活かし、児童生徒の学習意欲の向上や中1ギャップの解消に役立てます。

3 9年間を見通した系統的・継続的な指導

義務教育9年間の児童生徒の発達著しく、心身ともに大きく成長します。そこで、児童生徒の発達段階から、義務教育9年間を、4年間・3年間・2年間の3つの教育区分に分けて考え系統的・継続的な指導をしていきます。

- 基礎期…第1段階（小学校1年生～4年生）義務教育前期 基礎基本を定着させる時期
- 充実期…第2段階（小学校5年生～中学校1年生）義務教育中期 複雑で抽象的な考え方ができるが、最も心が揺れ動く時期 基礎基本を充実させる時期
- 発展期…第3段階（中学校2年生・3年生）義務教育後期 個性能力を伸ばす時期

小学校						中学校		
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
第1段階<基礎期>						第2段階<充実期>		
						第3段階<発展期>		

具体例1

○小学校教員による学習支援と中学校教員による学習支援

数学など小学校教諭による個別指導の機会を中1段階でも行ったり、中学校の教員による小学校での出前授業をしたりして、小中の学習上の接続を滑らかにします。



具体例2

○小中学校の児童生徒間、教員間の積極的な交流

（児童生徒間交流）学校行事への参加、クラブ・部活動交流、挨拶運動、高齢者との交流など地域福祉教育の連携、合同防犯パトロールなど防犯活動の連携も行います。



具体例3

○授業規律、学校生活ルールの共有化

授業規律、清掃の方法のほか、服装・持ち物・休み時間の過ごし方のルールなどを一緒に考えます。



5

英語教育の重点科目としての取組

狭山市では、平成15年から英語特区として、小学校1年生から9年間を見据えた英語活動実践に取り組み、成果を挙げてきました。小中学校の教員で作成した『狭山市英語活動・英語指導マニュアル』では9年間を見通したカリキュラムがまとめられています。こういった今までの取組をより充実させ、中学校の英語教育との連携を強め、更なる進化を図り、学力向上を図っていきます。

